
機動戦士ガンダム〇〇 世界を変えるガンダム

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

【Nコード】

N0079Z

【作者名】

剣聖龍

【あらすじ】

毎日を退屈に過ごしている木崎魁、新垣健人、西村真由、三藤拓真の4人はある日、4つのペンダントを拾う。

その瞬間、ガンダムOOの母艦、プトレマイオス2改に飛ばされ、艦長のスメラギから『ガンダムマイスターになってくれないかしら？』と、衝撃の言葉を聞く4人。

これは、ガンダムマイスターとなった少年達が、世界を救う為に世界を変える物語である。

第1話 謎のペンダント（前書き）

新作です。ではどうぞ。

第1話 謎のペンダント

〈ナレーションSIDE〉

「…つまんねえ」

木の日陰で寝ている少年が呟く。

「あ！いたいた、魁〜！」

「ん？ああ、真由か」

黒髪のポニーテールの真由と呼ばれた女子が魁と呼ばれた少年に近寄る。

「また昼寝してるの？」

「まあね。高校つまんないし。真由も同じだろ？」

「まあ、そうだけど…」

真由はそう言って寝ている魁の横に座る。

「やっぱり、剣道には入らないの？」

「ああ。なんかもう、昔みたいに面白くないんだよ。真由こそ、サバゲーの方は全然やって無いじゃないか」

ちなみにサバゲーとはサバイバルゲームの略である。

「私も魁と同じかな…なんかつまらないの」

「て言うか授業も退屈だし。分かる事を最初からやるとかマジで辛い」

「それは健人と拓真も言ってたね。私もだけど」

「だろ？」

そう言っただけと真由は一度目を合わせ、深々と溜め息を吐いた。その後、昼休みの終わりを告げるチャイムを聞いた2人はそれぞれの教室、魁は1年4組に、真由は1年3組に戻っていった。

（放課後）

授業が終わり、魁と真由は生徒玄関に来ていた。

「よお、魁、真由」

不意に声を掛けられた2人は後ろを向くと、2人の男子が立っていた。

「健人、それに拓真か」

「どうしたんだい？2人揃って暗い顔をして」

拓真と呼ばれたメガネを掛けた知的な雰囲気男子が問い掛ける。

「毎度の事。授業が凄くつまんなかったの」

「そりゃ言えてるな」

今度は健人と呼ばれた茶髪の飄々とした男子が言う。魁、健人、真由、拓真。

この4人はクラスは違うが小学校からの幼馴染みである。（健人は5組、拓真は1組）

実は4人とも種類は違うがかなりの実力者で、中学3年の時に魁は剣道、健人はクレール射撃、真由はサバイバルゲーム、拓真はExcelの全国大会で優勝している実績を持つ。

更に周りには隠しているが、勉強に関しても4人は既に東大の卒業生並に頭が良い。（何故かは分からない）だが、この4人には悲しい共通点もある。

それは4人とも親が居ない事だ。

4人がまだ小さい頃に起こったとある橋の崩落事故。それに4人の親は運悪く巻き込まれてしまい、この世を去った。

それから身寄りも無い4人は施設に入り、中学、そして今（高校）は寮に入っている。

それ以外にも悲しくはないが共通点があった。

4人ともガンダムが好きな事だ。

特に好きなのは4人とも『ガンダム00』。

そんな共通点もあり、4人は仲良くなったという訳だ。

「ん？なんだ？」

下駄箱を開けた魁が中にある何かを見つけ、引っ張り出した。それは青い宝石のようなペンダントだった。

「なんだこりゃ？」

「あれ？僕の下駄箱にも何かある」

「俺もだ」

「私も」

そう言つて健人、真由、拓真の3人も下駄箱から何かを引っ張り出す。

健人は緑色、真由はオレンジ色、拓真は紫色の宝石のようなペンダントだった。

「なんだろう、これ？」

「宝石…じゃないよな」

「誰かの落とし物でしょうか？」

「さあ…一体なんなんだ？」

4人はそれぞれのペンダントをまじまじと見つめる。その時、4つのペンダントが青白い閃光を放ち、次の瞬間、4人は玄関から消えていた。

く????く

「うん…」

魁が目を覚まし、周りを見渡す。
すると、倒れている健人、真由、拓真を発見した。
魁は倒れている3人に近寄り、揺する。
すると3人は目を覚ました。

「魁…？」

「良かった。目が覚めたんだな」

「ここは何処でしょうか？」

「学校じゃねえよな」

立ち上がり、魁達は周りを見渡す。
床、壁、天井が白一色で壁と床にはモニターが埋め込まれている。
4人はその光景を知っていた。

「おい、ここって…」

「もしかすると…」

「夢じゃないよね…？」

「夢じゃありません、ここは…」

『『ガンダムOO』のプトレマイオス2改のブリーフィングルーム
！？』』

4人は同時に叫ぶ。

その時、ブリーフィングルームのドアが開く音がし、その方向には4人の知る人物達が立っていた。

「あ、貴女は！ソレスタルビーイングの戦術予報士、スメラギ・李・ノリエガさん！？」

「ええ、そうよ」

「それにオペレーターのフェルト・グレイスにミレイナ・ヴァステイ！？」

「操舵士のラッセ・アイオンさんも！？」

「ついでにイアン・ヴァステイとリンダ・ヴァステイも居る！？」

「ついでってなんだ、ついでって！」

怒るイアンをリンダが宥め、スメラギが口を開いた。

「まず知ってると思うけど、私が戦術予報士のスメラギ・李・ノリエガ。木崎魁君、新垣健人君、西村真由さん、三藤拓真君、ソレスタルビーイング（以下CB）によっこそ」

「CB！？じゃあここは……」

「貴方達の言う通り、プトレマイオス2改のブリーフィングルームです。私はフェルト・グレイス、オペレーターをやっています」

絶叫する4人。

「どういう事ですか！？ガンダムマイスターは刹那さん達じゃないんですか！？」

「まだ言ってなかったわね。私達はCBだけど、“本物のCBじゃない”」

「どういう事ですか？」

「私達はガンダムOOのCBを元にして生まれたCB。私達の目的は様々な世界の監視、及びバグ世界になりかけの世界への武力介入よ」

「様々な世界の監視？」

「バグ世界？」

聞き慣れない単語に、4人は首を傾げる。

「一言に“世界”と言っても色んな世界、幾つものパラレルワールドが存在するの。当然中には存在し続ける世界もあれば消滅する世界もある。でも消滅する筈の世界に突然“バグ”と言うものが発生し、他の世界に影響を与える“バグ世界”と呼ばれるものになってしまうの。そうなたらその世界は破壊するしか無くなるわ」

『……………』

「でもバグが発生したからと言って、必ずしもその世界を破壊しなければいけない訳じゃない。バグが侵食し切る前に世界を変えれば

バグは変革に耐えきれず、破壊されるわ。そして私達のCBのガンダムマイスターの使命は世界を変える為に闘って貰う事よ。でもいくら私達OOから生まれたからといって、流石に向こうのガンダムマイスターまではそのままは連れてこれず、私達は別の世界からマイスターを集める事にした。そしてそれに選ばれたのが…」

「僕達、と言う訳ですね？」

スメラギの言葉を魁が続けた。

「そう言う事。で、やってくれるかしら？」

スメラギが問い掛けると、魁達は黙り込んでしまう。

「あの…世界を変えるって事は、やっぱり、人を殺すんですか？」

真由が質問する。

「…ええ、そうよ。そのせいで今までガンダムマイスターの候補だった者達は次々と降りていったわ」

当然である。誰だって人を殺したくない。

しかも、CBはテロリストとも取れるため、言い方を変えれば“テロリストになれ”と言われているのと同じだ。

沈黙する4人。だが、突如それを破った者が現れた。

「僕、やります！」

そう言ったのは魁だ。

「魁！？」

「理由を聞かせてくれるかしら？」

「…僕は向こうの世界で剣道で優勝してから殆どの事がつまらなくなりまして。でも、〇〇を見て、自分も世界を変えてみたい、ガンダム之力を信じてみたいと思ったんです。だから、お願いします！」

「…分かったわ。木崎魁君、貴方をCBのガンダムマイスターとします」

「はい！」

「お前達はとうするんだ？」

依然、黙り込んでいる3人にラッセが問い掛ける。

「…俺もやる。俺も魁と同じで、世界を変えてみたい！」

「私も！魁だけには任せるなんて出来ません！」

「僕も、ガンダムを信じてみたいです！」

「…良いのね？後戻りは出来ないわよ」

「覚悟の上です」

4人を代表して、魁が応える。

「分かったわ。貴方達4人をCBのガンダムマイスターとします。」

でも色々と準備もあるでしょうから今日はこれまで。明日の午後7時30分に貴方達の学校の屋上にそれぞれペンダントを持って来て頂戴」

『はい!』

「次の日」

一晩たった今日、魁達は朝から自室にてそれぞれ準備をしていた。リュックやカバンに荷物を積んでいた。

「魁自室」

「よし、これで最後だ」

リュックに荷物を入れ終わり、魁はチャックを閉める。
最後に青いペンダントを首に掛けた。

「後は…時間まで待つ位しかないか」

そう呟く魁。その他の3人も時間まで自室で過ごしたのだった。

「夜、7時30分」

学校の屋上には魁達4人が居た。
彼等は既に決心している。ガンダムマイスターとして闘う事を。

そしてそれぞれが首に掛けているペンダントが青白い輝きを放った。

「…行こう、皆」

「ああ」

「うん」

「分かってますよ」

そして4人はその世界から消えた。

第1話 謎のペンダント（後書き）

感想等お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0079z/>

機動戦士ガンダム00 世界を変えるガンダム

2011年11月30日17時55分発行